2027年３月期　第２四半期（中間期）決算短信〔日本基準〕(連結)

2026年11月９日

上 場 会 社 名	イフジ産業株式会社	上場取引所	東・福
コ ー ド 番 号	2924	URL	https://www.ifuji.co.jp/
代　　表　　者	（役職名） 代表取締役社長	（氏名）	藤井　宗徳
問合せ先責任者	（役職名） 常務取締役管理本部長	（氏名）	原　　敬　　(TEL) 092-938-4561
半期報告書提出予定日	2026年11月10日	配当支払開始予定日	2026年12月10日

決算補足説明資料作成の有無　　：無
決算説明会開催の有無　　：無

（百万円未満切捨て）

１．2027年３月期第２四半期（中間期）の連結業績（2026年４月１日～2026年９月30日）

（１）連結経営成績(累計)

（%表示は、対前年中間期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する中間純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2027年３月期中間期	15,408	△3.9	1,161	△21.6	1,165	△22.3	794	△23.4
2026年３月期中間期	16,036	44.6	1,480	△2.8	1,499	△2.3	1,036	0.1

（注）包括利益　2027年３月期中間期　782百万円(△25.0%)　2026年３月期中間期　1,044百万円(　0.8%)

	１株当たり中間純利益	潜在株式調整後１株当たり中間純利益
	円 銭	円 銭
2027年３月期中間期	97.40	―
2026年３月期中間期	127.35	―

（２）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2027年３月期中間期	19,009	13,147	69.2
2026年３月期	18,925	12,620	66.7

（参考）自己資本　2027年３月期中間期　13,147百万円　　2026年３月期　12,620百万円

２．配当の状況

	年間配当金				
	第１四半期末	第２四半期末	第３四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2026年３月期	―	32.00	―	35.00	67.00
2027年３月期	―	33.00			
2027年３月期(予想)			―	36.00	69.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無　：　無

３．2027年３月期の連結業績予想（2026年４月１日～2027年３月31日）

（%表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		１株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	33,376	2.5	2,913	4.4	2,887	1.0	2,024	1.0	248.48

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無　：　無

※　注記事項

（１）当中間期における連結範囲の重要な変更　　：　無

新規　―　社（社名）　　―　　、　除外　―　社　（社名）　　―

（２）中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用　　：　無

（３）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

①　会計基準等の改正に伴う会計方針の変更　　：　無

②　①以外の会計方針の変更　　：　無

③　会計上の見積りの変更　　：　無

④　修正再表示　　：　無

（４）発行済株式数（普通株式）

①　期末発行済株式数（自己株式を含む）	2027年３月期中間期	8,345,370株	2026年３月期	8,345,370株
②　期末自己株式数	2027年３月期中間期	181,552株	2026年３月期	195,748株
③　期中平均株式数（中間期）	2027年３月期中間期	8,155,053株	2026年３月期中間期	8,141,355株

※　第２四半期（中間期）決算短信は公認会計士又は監査法人のレビューの対象外です

※　業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想に関する事項については、添付資料３ページ「（３）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

１．当中間決算に関する定性的情報 …… 2
（１）経営成績に関する説明 …… 2
（２）財政状態に関する説明 …… 3
（３）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 …… 3
２．中間連結財務諸表及び主な注記 …… 4
（１）中間連結貸借対照表 …… 4
（２）中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書 …… 5
中間連結損益計算書 …… 5
中間連結包括利益計算書 …… 6
（３）中間連結キャッシュ・フロー計算書 …… 7
（４）中間連結財務諸表に関する注記事項 …… 8
（継続企業の前提に関する注記） …… 8
（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記） …… 8
（中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用） …… 8
（セグメント情報等） …… 8
（収益認識関係） …… 9

１．当中間決算に関する定性的情報

（１）経営成績に関する説明

当中間連結会計期間におけるわが国経済は、人口減少に伴う労働力不足が顕在化するなど、国内における構造的な課題が継続しました。また、企業による賃上げの動きは見られたものの、通貨安やインフレによる物価上昇がこれを上回り、実質的な個人消費の弱さが継続しました。加えて、イラン情勢を背景とした中東地域の地政学的緊張の高まりにより、エネルギー価格及び供給が不安定に推移するなど、先行き不透明な状況が続きました。

食品業界におきましては、エネルギー価格、原材料費、資材費、物流費及び人件費など様々なコストが急激に上昇するなか、価格転嫁による対応が進められましたが、消費者の生活防衛意識も強く、厳しい事業環境が続きました。

このような状況の中、当社グループとしましては、持続的成長と競争力向上のために、中期的な成長戦略として、液卵事業において、2030年度の液卵の販売数量８万トン、業界でのシェア20％を目標に掲げ、製品の供給能力の増大のため全ての工場において積極的な設備投資を進めております。さらに、人的資本経営の強化のために、初任給の引上げ等による次世代を担う人材の採用の促進、高い職務能力を持った多様な人材の育成、継続的なベースアップや健康経営優良法人の取得を始めとした従業員エンゲージメントの向上等を行っております。

このような状況の中、当社グループの当中間連結会計期間の連結売上高につきましては、前年同期比3.9％減の15,408百万円となりました。

損益につきましては、連結営業利益は同21.6％減の1,161百万円、連結経常利益は同22.3％減の1,165百万円となりました。また、親会社株主に帰属する中間純利益は、同23.4％減の794百万円となりました。

なお、投資負担の影響を除いたEBITDA（営業利益＋減価償却費＋のれん償却額）は同13.1％減の1,583百万円となりました。

セグメントの業績を示すと、次のとおりであります。

①液卵事業

当セグメントにおける主要な関係会社は、イフジ産業株式会社であります。

当セグメントが所属する鶏卵業界では、2020年以降、毎年のように大規模な鳥インフルエンザが発生しており、鶏卵の生産量が季節間で不安定であり、それに伴い、鶏卵や液卵の需要も不安定な状態になっています。この状況は、鳥インフルエンザの発生リスクが低減されない限り今後も継続していくものと考えておりますが、液卵は「食の半導体」であるため、最大の顧客ニーズである安定供給を当社の第一の使命としております。

当中間連結会計期間におきましては、2025年10月以降に全国で多発した鳥インフルエンザにより約530万羽の採卵鶏が殺処分された影響が残ったものの、2025年の採卵用ひなの餌付け羽数は前年比105.4％で推移しており、鶏卵相場は依然高値ではあるものの、前年同期と比べ落ち着いた展開になりました。当セグメントの商品及び原料の数量全体の約80％について販売単価及び仕入単価が鶏卵相場に連動しております。そのため、販売単価と仕入単価の差益を一定額以上確保し、販売数量の確保に努めることで、利益の最大化を図っております。

事業規模を示す指標である液卵の販売数量につきましては、前年同期比1.4％減となりました。これは主に、2026年７月に起きた熊本地震により一部取引先の生産に影響が出たこと、また冷凍食品向けや卵加工製品向けが落ち込んだことによるものでありますが、新規取引先の獲得や既存取引先内でのシェアの拡大を継続して進めており、第１四半期連結累計期間からの減少幅は縮小して回復傾向で推移しております。また、大規模な鳥インフルエンザが発生した場合においても液卵の安定供給を継続できるよう、十分な原材料及び製品の在庫を確保しております。

当セグメントの売上高につきましては、前述のとおり液卵の販売数量が減少したこと、鶏卵相場（全農東京Mサイズ基準値）が前年同期比約7.1％（23.5円/kg）低く推移し連動する液卵の販売単価も低く推移したこと等により液卵売上高は同5.2％減の13,420百万円となりました。また、加工品売上高は、茶碗蒸しベースの販売増加等により同1.3％増の730百万円、その他売上高は鶏卵販売の増加等により同55.2％増の236百万円となりました。この結果、当セグメント合計の売上高は同4.3％減の14,386百万円となりました。

セグメント利益につきましては、生産ラインの省人化と今後の事業成長を見据え積極的な設備投資を進めていることから減価償却費が76百万円増加したことや、人的資本投資の強化に伴う人件費が増加したこと、また、原料集荷の効率化に向けた備品購入等による消耗品費が増加したこと、加えてエネルギー価格、資材費、物流費等が上昇したこと等により、同21.7％減の1,132百万円となりました。しかしながら、液卵の販売数量が回復傾向にあることや、価格転嫁が徐々に進んでいること等から、セグメント利益の前年同期比での減少幅は第１四半期連結累計期間と比べて縮小しており、第２四半期連結会計期間においては前年同期を上回るなど、収益環境は改善に向かっております。

②調味料事業

当セグメントにおける主要な関係会社は、日本化工食品株式会社であります。

当セグメントの売上高につきましては、既存取引先への販売が増加したことや、新規取引先を獲得したこと等により、前年同期比5.9％増の630百万円となりました。

セグメント利益につきましては、製造体制の効率化に向けた備品購入等による消耗品費の増加、設備投資による減価償却費の増加及びエネルギー価格の上昇等に伴い製造コストが増加したこと等により同33.3％減の20百万円となりました。

③オーガニックＥＣ事業

当セグメントにおける主要な関係会社は、HORIZON FARMS株式会社であります。

当セグメントの売上高につきましては、前年に実施した販促施策の反動等により売上高は前年同期比2.6％減の425百万円となりました。

セグメント利益につきましては、販促施策の抑制に伴う関連経費の削減により粗利率が改善したことや、価格転嫁による収益性の向上も寄与したこと等により同172.1％増の８百万円となりました。

（２）財政状態に関する説明

①資産、負債及び純資産の状況

（資産）

当中間連結会計期間末の資産合計は19,009百万円となり、前連結会計年度末に比べ83百万円増加しました。

流動資産は10,995百万円となり、前連結会計年度末に比べ74百万円増加しました。主な要因は、商品及び製品の増加801百万円、原材料及び貯蔵品の減少187百万円、現金及び預金の減少167百万円、受取手形及び売掛金の減少283百万円等によるものであります。

固定資産は8,013百万円となり、前連結会計年度末に比べ８百万円増加しました。主な要因は、建物及び構築物の増加282百万円、建設仮勘定の減少256百万円等によるものであります。

（負債）

当中間連結会計期間末の負債合計は5,861百万円となり、前連結会計年度末に比べ443百万円減少しました。

流動負債は4,647百万円となり、前連結会計年度末に比べ185百万円減少しました。主な要因は、短期借入金の増加220百万円、支払手形及び買掛金の減少270百万円等によるものであります。

固定負債は1,213百万円となり、前連結会計年度末に比べ257百万円減少しました。主な要因は、長期借入金の減少251百万円等によるものであります。

（純資産）

当中間連結会計期間末の純資産合計は13,147百万円となり、前連結会計年度末に比べ526百万円増加しました。主な要因は、親会社株主に帰属する中間純利益794百万円の計上等により利益剰余金が509百万円増加したこと等によるものであります。

この結果、自己資本比率は69.2%となりました。

②キャッシュ・フローの状況

当中間連結会計期間における「現金及び現金同等物の中間期末残高」は、前年同期に比べ339百万円減少し3,281百万円となりました。

当中間連結会計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

当中間連結会計期間において営業活動により得られた資金は、前年同期に比べ440百万円増加し618百万円となりました。主な要因は、税金等調整前中間純利益の計上1,177百万円や減価償却費の計上390百万円等により資金が増加し、棚卸資産の増加630百万円や法人税等の支払い416百万円等により資金が減少したこと等によるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

当中間連結会計期間において投資活動により使用された資金は、前年同期に比べ427百万円減少し465百万円となりました。主な要因は、有形固定資産の取得による支出470百万円等により資金が減少したことによるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

当中間連結会計期間において財務活動により使用された資金は、325百万円（前年同期は322百万円の資金増）となりました。主な要因は、短期借入金の純増加額260百万円により資金が増加し、配当金の支払額285百万円や長期借入金の返済による支出291百万円により資金が減少したこと等によるものであります。

（３）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2027年３月期の業績予想につきましては、当中間連結会計期間においては前年同期比で減益となりましたが、第２四半期の３ヶ月間においては前年同期比で微増となっており、概ね当初想定の範囲内で推移しております。液卵事業において、設備投資により全事業部で主に外食向けに出荷する利便性の高い少量規格品の量産が可能になりました。また、鶏卵相場の展開が前年と比べて安定していることもあり今後は得意先の液卵使用量の回復が見込まれること等から、今後は液卵の販売数量が増加していくことが見込まれます。さらに、適正な利益水準を確保するために計画的な価格転嫁を継続して実行していること等より、2026年５月７日に公表した業績予想から変更はしておりません。

業績予想につきましては、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成しており、実際の業績は今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

なお、前年に引き続き鳥インフルエンザが発生する可能性も高く、今後も需給の予測が難しい状況となっております。今後、開示すべき事項が発生した場合は速やかにお知らせいたします。

２．中間連結財務諸表及び主な注記

（１）中間連結貸借対照表

（単位：百万円）

	前連結会計年度 (2026年３月31日)	当中間連結会計期間 (2026年９月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,508	3,340
受取手形及び売掛金	3,928	3,644
商品及び製品	1,963	2,765
仕掛品	121	137
原材料及び貯蔵品	1,128	941
その他	281	175
貸倒引当金	△10	△10
流動資産合計	10,921	10,995
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	2,539	2,821
機械装置及び運搬具（純額）	2,305	2,372
土地	1,857	1,857
リース資産（純額）	31	29
建設仮勘定	453	196
その他（純額）	86	89
有形固定資産合計	7,274	7,367
無形固定資産		
のれん	393	361
その他	18	17
無形固定資産合計	412	379
投資その他の資産		
投資有価証券	207	191
繰延税金資産	100	65
その他	14	13
貸倒引当金	△3	△3
投資その他の資産合計	317	266
固定資産合計	8,004	8,013
資産合計	18,925	19,009
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,499	1,229
短期借入金	1,865	2,085
１年内償還予定の社債	16	16
リース債務	3	3
未払法人税等	478	371
賞与引当金	202	88
その他	768	854
流動負債合計	4,833	4,647
固定負債		
社債	24	16
長期借入金	1,329	1,077
リース債務	33	32
その他	84	87
固定負債合計	1,471	1,213
負債合計	6,305	5,861
純資産の部		
株主資本		
資本金	455	455
資本剰余金	422	430
利益剰余金	11,939	12,448
自己株式	△279	△257
株主資本合計	12,539	13,077
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	81	70
その他の包括利益累計額合計	81	70
純資産合計	12,620	13,147
負債純資産合計	18,925	19,009

（２）中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書

中間連結損益計算書

（単位：百万円）

	前中間連結会計期間 （自 2025年４月１日 至 2025年９月30日）	当中間連結会計期間 （自 2026年４月１日 至 2026年９月30日）
売上高	16,036	15,408
売上原価	13,011	12,581
売上総利益	3,024	2,826
販売費及び一般管理費	1,544	1,665
営業利益	1,480	1,161
営業外収益		
受取利息	3	4
受取配当金	3	2
受取保険金	4	－
受取賃貸料	9	9
その他	9	8
営業外収益合計	30	25
営業外費用		
支払利息	12	20
その他	－	0
営業外費用合計	12	21
経常利益	1,499	1,165
特別利益		
投資有価証券売却益	－	12
特別利益合計	－	12
特別損失		
固定資産除売却損	－	0
特別損失合計	－	0
税金等調整前中間純利益	1,499	1,177
法人税、住民税及び事業税	443	343
法人税等調整額	18	40
法人税等合計	462	383
中間純利益	1,036	794
非支配株主に帰属する中間純利益	－	－
親会社株主に帰属する中間純利益	1,036	794

中間連結包括利益計算書

（単位：百万円）

	前中間連結会計期間 （自 2025年４月１日 至 2025年９月30日）	当中間連結会計期間 （自 2026年４月１日 至 2026年９月30日）
中間純利益	1,036	794
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	7	△11
その他の包括利益合計	7	△11
中間包括利益	1,044	782
（内訳）		
親会社株主に係る中間包括利益	1,044	782
非支配株主に係る中間包括利益	－	－

（３）中間連結キャッシュ・フロー計算書

（単位：百万円）

	前中間連結会計期間 （自 2025年４月１日 至 2025年９月30日）	当中間連結会計期間 （自 2026年４月１日 至 2026年９月30日）
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前中間純利益	1,499	1,177
減価償却費	309	390
のれん償却額	31	31
賞与引当金の増減額（△は減少）	△84	△114
受取利息及び受取配当金	△7	△7
受取保険金	△4	－
支払利息	12	20
投資有価証券売却損益（△は益）	－	△12
固定資産除売却損益（△は益）	－	0
売上債権の増減額（△は増加）	79	283
棚卸資産の増減額（△は増加）	△918	△630
仕入債務の増減額（△は減少）	244	△270
未払消費税等の増減額（△は減少）	△235	46
その他	△178	132
小計	748	1,048
利息及び配当金の受取額	7	7
利息の支払額	△12	△21
保険金の受取額	4	－
法人税等の支払額	△570	△416
営業活動によるキャッシュ・フロー	177	618
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△10	△10
定期預金の払戻による収入	4	4
有形固定資産の取得による支出	△882	△470
投資有価証券の取得による支出	△4	△3
投資有価証券の売却による収入	－	14
無形固定資産の取得による支出	－	△1
その他	△0	0
投資活動によるキャッシュ・フロー	△893	△465
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額（△は減少）	412	260
長期借入れによる収入	500	－
長期借入金の返済による支出	△255	△291
社債の償還による支出	△8	△8
自己株式の取得による支出	△0	△0
配当金の支払額	△325	△285
リース債務の返済による支出	△0	△1
財務活動によるキャッシュ・フロー	322	△325
現金及び現金同等物の増減額（△は減少）	△392	△173
現金及び現金同等物の期首残高	4,014	3,454
現金及び現金同等物の中間期末残高	3,621	3,281

（４）中間連結財務諸表に関する注記事項

（継続企業の前提に関する注記）
該当事項はありません。

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）
該当事項はありません。

（中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用）
該当事項はありません。

（セグメント情報等）
【セグメント情報】

Ⅰ　前中間連結会計期間(自　2025年４月１日　至　2025年９月30日)

１．報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：百万円）

	報告セグメント			合計	調整額（注）	中間連結損益計算書計上額
	液卵事業	調味料事業	オーガニックEC事業			
売上高						
外部顧客への売上高	15,035	564	436	16,036	―	16,036
セグメント間の内部売上高又は振替高	―	31	―	31	△31	―
計	15,035	595	436	16,067	△31	16,036
セグメント利益	1,447	30	3	1,480	―	1,480

（注）セグメント売上高の調整額△31百万円は、セグメント間の内部売上高消去額であります。

２．報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

「オーガニックＥＣ事業」セグメントに配分されたのれんの償却額は31百万円、未償却残高は424百万円であります。

Ⅱ　当中間連結会計期間(自　2026年４月１日　至　2026年９月30日)

１．報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：百万円）

	報告セグメント			合計	調整額（注）	中間連結損益計算書計上額
	液卵事業	調味料事業	オーガニックEC事業			
売上高						
外部顧客への売上高	14,386	596	425	15,408	―	15,408
セグメント間の内部売上高又は振替高	0	34	―	34	△34	―
計	14,386	630	425	15,442	△34	15,408
セグメント利益	1,132	20	8	1,161	―	1,161

（注）セグメント売上高の調整額△34百万円は、セグメント間の内部売上高消去額であります。

２．報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

「オーガニックＥＣ事業」セグメントに配分されたのれんの償却額は31百万円、未償却残高は361百万円であります。

（収益認識関係）

顧客との契約から生じる収益を分解した情報

前中間連結会計期間（自　2025年４月１日　至　2025年９月30日）

（単位：百万円）

	報告セグメント			合計
	液卵事業	調味料事業	オーガニックEC事業	
液卵	11,983	－	－	11,983
凍結卵	2,179	－	－	2,179
卵加工品	720	－	－	720
その他鶏卵関連	138	－	－	138
調味料	－	563	－	563
オーガニック商品	－	－	436	436
その他	13	0	－	14
顧客との契約から生じる収益	15,035	564	436	16,036
その他の収益	－	－	－	－
外部顧客への売上高	15,035	564	436	16,036

当中間連結会計期間（自　2026年４月１日　至　2026年９月30日）

（単位：百万円）

	報告セグメント			合計
	液卵事業	調味料事業	オーガニックEC事業	
液卵	11,112	－	－	11,112
凍結卵	2,307	－	－	2,307
卵加工品	730	－	－	730
その他鶏卵関連	223	－	－	223
調味料	－	596	－	596
オーガニック商品	－	－	425	425
その他	12	0	－	13
顧客との契約から生じる収益	14,386	596	425	15,408
その他の収益	－	－	－	－
外部顧客への売上高	14,386	596	425	15,408